

第19回南多摩保健医療圏地域保険医療福祉フォーラム

演題名 多様化する小児在宅支援の課題

演者 大瀧 潮(社会福祉法人 島田療育センター 在宅支援室・訪問診療担当)

はじめに

在宅医療推進の国策は、小児領域にも波及し、日常的に医療を必要とする子供たちが地域で生活を始めている。高度医療化により、在宅人工呼吸器や在宅中心静脈栄養などの専門的な医療機器を管理する必要があり、当センターでは平成28年4月に在宅支援室を開設した。住み慣れた街で安心して暮らすための小児の在宅支援体制の構築は、医療福祉保健教育の連携が急務であるが、実態把握も含めて障壁が多い。一方で、支援体制が不十分でも、在宅移行せざるを得ない子供と家族が抱える課題も多様化している現状について報告する。

報告事項

- (1)当センターの担当する南多摩地域と診療内容の紹介
- (2)小児で在宅移行前の問題になりやすいこと
- (3)小児で在宅移行後に問題になりやすいこと
- (4)家族が抱える課題

考察と展望

小児在宅医療は、専門的な医療が高度医療機関病院から在宅に「飛び出してきた」状態と言っても過言ではない。「高齢者が生活の中で徐々に介護が必要になってきた」という「介護主導」とは異なり、「医療主導」で進んでいる。しかし、子供や家族が安心して暮らすための支援は、医療だけでは決して解決できず保育・教育も含めた自治体の協力が不可欠である。さらには、在宅医療の極端な高度化により、支援側も安易に手出しができず、結果的に孤立する家族もいる。「住み慣れた地域で、家族と安心して過ごす」という本来の意義を見失わない為に、医療側は医療に暴走しないよう、地域側は他人事と扱わないよう相互理解を深め協働し続ける必要がある。